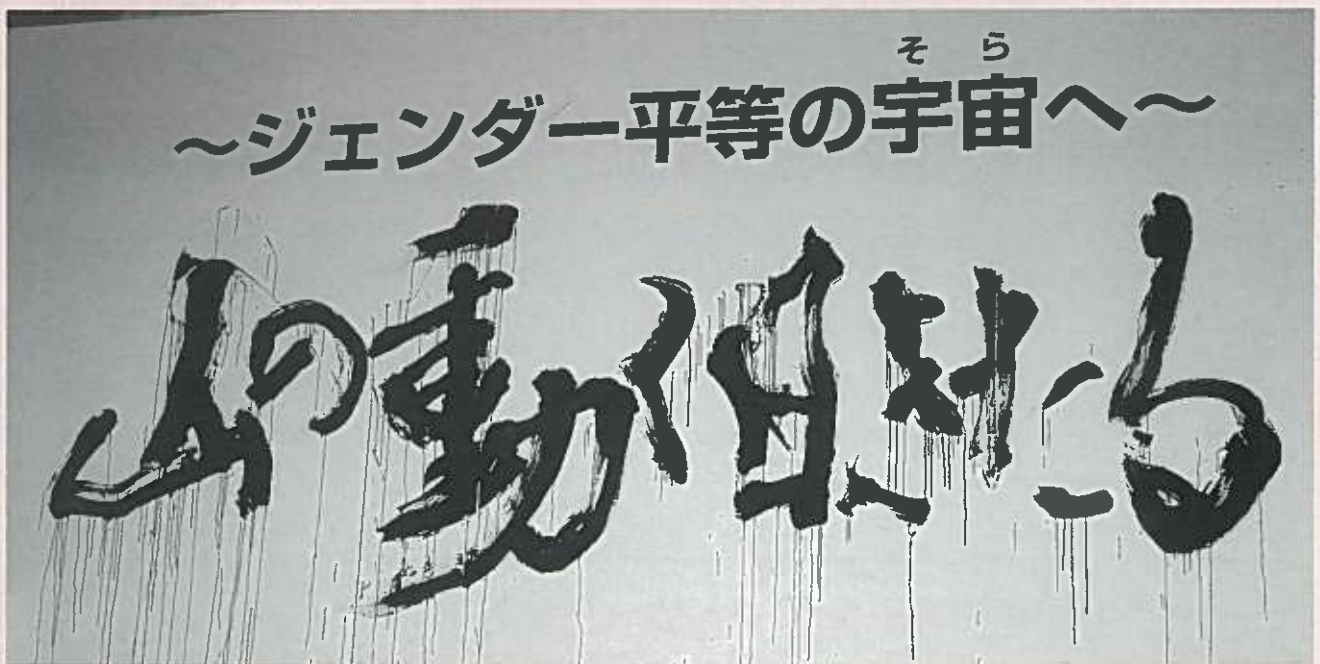


～男女共同参画社会の実現に向けて～

# モア MORE

ひとひと  
幸手市女と男の情報紙  
第15号 2010

モア(MORE)とは、女と男がより豊かに、よりすばらしい男女共同参画社会実現への願いを込めて命名しました。



“山の動く日きたる”は、女性の自立と解放をうたった与謝野晶子の詩の一節です。

友達って気持ちいい

いつも明るい教室が

君がない

ただそれだけでさみしい

どうしたのかな

病気かな

君がつらいときは

いつでも私が力になるよ

私がつらいときには

君の笑顔が力になる

そばにいてだけで安心する

明日は君の笑顔に会えるかな

西中学校

一年 生井 明日香

(平成二十二年三月現在)

# 第3次幸手市男女共同参画プランスタート

(計画期間平成21年度～平成26年度)

## 幸手市がめざす男女共同参画社会

### 基本理念

すべての男女は、その人権が尊重され、能力を発揮して自主的に行動できる

#### プランのめざす3つの社会

##### 能力の発揮

男女が共に個人として自立し、その個性と能力を発揮できる社会

##### 対等な家庭生活

対等なパートナーとして共に支え合いながら仕事や家庭生活に取り組める社会

##### 地域への参画

互いに考え方や生き方を認め合い、家庭と地域社会の中で行動できる社会

### 男女共同参画社会実現へ重点的に取り組む4つの基本目標

#### (1) 推進体制の充実と市民活動の支援

- ・男女が共に取り組む子育て支援
- ・男性の家庭生活への参画
- ・地域社会における男女共同参画の促進
- ・介護体制・環境の整備
- ・政策方針の立案及び決定への共同参画
- ・誰もが心安らぎ住み続けられるまち

#### (2) 男女共同参画社会形成への意識づくり

- ・男女共同参画のための意識改革
- ・男女共同参画についての教育・学習の充実

#### (3) 男女が共に社会参加できる環境づくり

- ・職業生活と家庭生活の両立支援
- ・多様化する就労形態への支援
- ・女性の就労を支える環境整備

#### (4) セクハラ・DV対策

- ・あらゆる形態の暴力の根絶

※第3次幸手市男女共同参画プランの詳細については、人権推進課にお問い合わせ下さい。



# ひとひと 女と男の共生セミナー in 西中学校 みんなちがって みんないい

幸手市男女共同参画推進協議会では、平成21年10月16日(金)、幸手市立西中学校で「女と男の共生セミナー」を開催しました。今回のテーマ「みんなちがって みんないい」は、詩人金子みすゞの詩の一節です。

このセミナーは、人それぞれのちがいを認め合い、協力しながら生きる社会の実現を目的としたもので、同校生徒と市民合わせて約560名が参加しました。

最初に、同協議会の福田会長が「男女はそれぞれの役割を決めつけられるのではなく、個性を活かした役割分担が大切」とあいさつ、西中学校内田校長は、「男女共同参画というのは、男も女も同じでなければならぬというのではなく、ちがいを活かして共に生きるということ」と話されました。

当日の講師、カウンセラーでシンガーソングライターの南修治さんが、ギターとハーモニカを抱えて登場、これまでの体験を基に自ら作詞作曲した歌に乗せて語りかけました。

強くなくても、勉強ができなくても、それがすべてじゃない。人はみな同じではなく、君は君のままですばらしい。人とのちがいをどう活かして生きるかが大切なのだ。私はそれができず、兄弟に対する劣等感から人生をあきらめかけた時期がある。さまざまな困難を克服して自分らしく生きるにはどうすればよいか。それは、仲間を作ることだ。わかってくれる人は必ずいる。君は一人ではない。

このように語り、生徒たちは真剣に聴き入っていました。

地球上には、まだあちこちで戦争が行われていて、たくさんの命が失われています。

政治体制、宗教、人種、文化などの違いを互いに認め合い尊重し合うところが平和の礎ではないでしょうか。身近なところからお互いのちがいを認め合い、協力し合う教育が大切であることを痛感させられた90分でした。

最後に、西中学校の皆様ご協力ありがとうございました。



## 西中学校生徒の感想から

- ・とっても心に残る歌だった。ほくも少し生活を変えたいです。
- ・いい曲だった。少し自分に自信が持てたと思います。
- ・「君のままですばらしい」という詩とメロディーがとっても心に残った。また聞きたい。



## ♪君のままですばらしい (生徒が一番心に残った曲)

君は君のままですばらしい  
今を生きているんだから  
どんなにつらい出来事があっても  
暗い思いに包まれていても

君は君のままですばらしい  
世界中探し回っても  
君はここにいる君  
ひとりだけ  
選ばれた生命だから

森は君のために  
鳥の鳴き声を響かせ  
空は君のために朝日を上らせ  
季節の流れは君のために  
やがて春を巡らせるだろう

君は君のままですばらしい  
今を生きているんだから  
明日を描くことができるのは  
今を生きている君とぼく

君は君のままですばらしい  
今を生きているんだから  
たとえ身体が動かなくても  
学校へ行っていないなくても  
重たい過去を  
いくつも背負っていても

君は君のままですばらしい  
地球の長い歴史の中にも  
今日の出会いはただ一度だけ  
君のために歌いたい歌がある

今日から君は  
ひとりぼっちじゃない  
手を伸ばせば  
そこにみんな待ってるよ  
大きな愛にやがて  
気づくことだろう

君は君のままですばらしい  
今を生きているんだから  
明日を描くことができるのは  
今を生きている君とぼく

# 日本女性会議2009さかい

## 山の動く日きたる ~ジェンダー平等の宇宙へ~

平成21年10月30日(金)、31日(土)、「日本女性会議2009」が大阪府堺市で約4千人が参加して開催されました。

今年は、国連での「女性差別撤廃条約」の採択から30年、「男女共同参画社会基本法」制定から10年の節目の年です。男女共同参画社会の実現に向けて先進的に取り組み、大会のテーマ「山の動く日きたる」と詠んだ与謝野晶子の生誕の地「堺」から世界の平和構築・ジェンダー平等の「新しいメッセージ」が発信されました。

1日目は開会式やシンポジウム、基調報告があり、2日目は午前中に17の分科会が、午後からは全体会が開かれました。大会宣言「すべての人の願いである個人の尊厳が守られ、人権が保障される社会をめざして」が採択され、次年度開催地の京都市へ引き継がれ閉幕しました。

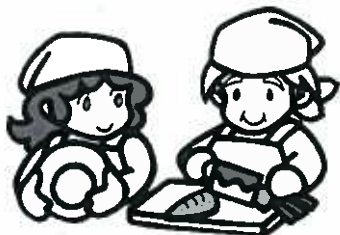
### 基調報告

岡島敦子内閣府男女共同参画局長から「男女共同参画施策の現状と課題」について基調報告が行われ、家庭や地域において、男女共同参画社会実現に向けて具体的に取り組むべき課題が提示されました。

『男女共同参画社会基本法』が制定されて10年を迎え、女性の参画拡大や、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進、地域における男女共同参画の推進など、様々な取り組みが進められてきましたが、いまだ十分な成果を上げていません。女性の意思決定機関などへの社会的参画が国際的に遅れています。日本を含め世界の女性の置かれている状況と国際化の中でジェンダー<sup>※</sup>の視点により、人間として根本にかかわる課題やセーフティネット整備の必要性など、深刻な課題が提示されました。

国連開発計画（UNDP）によると、女性が政治及び経済活動にどの程度参画しているかを示すGEM（ジェンダー・エンパワーメント指数）が日本は108か国中58位と世界水準に遠く及ばず、大きく落ち込んでいます。

「夫は外で働き、妻は家庭」と考える人の数は、年々減少しているものの、まだまだこうした「固定的性別役割分担意識」は、日本の社会に根強く残っていて、女性の意思決定の場や男性の家庭生活への参画を阻む要因の一つとなっています。このように、多くの課題が存在していて「実践」することの重要性を改めて考え直すきっかけとなりました。



### 日本女性会議2009さかいの シンボルマーク



堺市の歴史的遺産である古墳の形、前方後円墳をモチーフに、すべての人が性別にとらわれず共に協調し、発展する姿をデザインしています。

### 全体会

「ワーク・ライフ・バランスで女性も働きやすく」

仕事と生活の両方を充実させる、つまりワーク・ライフ・バランスが社会全体にとっても有益である、という観点から、資生堂の実例を紹介しながら論じられました。資生堂では、男女が共に子育てしながら、男女ともにキャリアアップすることをめざして、いろいろな改革が行われています。

その実現のためには、働き方を変えないと女性には無理なので、夜遅くまで仕事をしたり、辞令一本で転勤させられるという、男性型スタイルを変えなければなりません。

そうするには、リーダーに対する評価項目も変える必要があるため、「働き方の見直しをやっているか」「業務プロセスの改善をやっているか」などの評価項目を追加しました。

少子高齢化が加速している現状では、女性が働かないと成り立たない社会が、近い将来必ずやってきます。企業もワーク・ライフ・バランスをさらに積極的に考えざるを得ないでしょう。

※（用語説明）ジェンダーとは、社会的・文化的性別。人間が生まれつき持っている生物学的性別ではなく、社会通念や習慣の中で、社会的、文化的につくられた「男性像」、「女性像」に当てはめられる性別のことをいう。



## 分科会

## あなたの“からだ”守られていますか？

## 世代をつなぐリプロダクティブ・ヘルス／ライツ

女性の健康を考えるとときに欠かせない概念が「リプロダクティブ・ヘルス／ライツ」（性と生殖に関する健康と権利）です。

最初は大阪府立松原高校のグループ「るるくめいと」によるパフォーマンス、「お互いの心とからだを大切にするため一緒に考えよう」です。エイズについて学び合う若者たちが啓発活動を行う姿は性の多様性と共に思いやりの心の大切さを考えさせられました。

続いて、産婦人科医師から見る現在の若者の状況について阪南中央病院加藤治子医師から、思春期の

女の子が婦人科病院に来る理由である「妊娠・性感染症・月経異常・身体の悩み・性被害（性虐待を含む）」の現状の説明があり、若い女性の健康、教育の重要性を深く考えさせられました。

最後にグローバルな視点で、家族計画国際協力財団（ジョイセフ）の浅村里紗さんから「人は安全、健康で活動的な人生を送るためには若い時に適切な教育、情報のサービスが提供されなければならない」こと、その阻害原因である貧困がもたらす現状について講話があり、現実の厳しさについて認識新たにしました。



## 時代の《今》に響きあう、晶子の生き方

与謝野晶子は明治11年に堺市の和菓子商を営む老舗の三女に生まれ、少女時代から古典に親しみ短歌を詠み、明治34年に「みだれ髪」を刊行しました。

その後、与謝野鉄幹と結婚して11人の子を産み育てました。その間にも詩歌集、評論集、童話集と数多く刊行しています。大会のテーマである「山の動く日きたる」は晶子が女性の自立と解放をうたった

詩の一節です。（巻末参照）

晶子は女性の地位向上に積極的に取り組み、そして日本女性が人間として「自由に生きる」には経済的独立が必要と考え、男性に頼ることに反対し、家族を生涯支え続けた女性（ひと）です。

時代を超えて届く晶子からのメッセージ。私たちは、これをどう引き継ぐのか共に考えたいと思います。

## ときめき感動の時 ～私の独り言～

つい最近のこと、ある小学校で『子育て講座』が開かれ、私は、講師として伺いました。

その講座には、就学時前のお子さんを持つ保護者約40名が集まりました。会場にはお母さん方に混じってお父さんらしい若い方が1名だけ座っていました。

グループ毎に自己紹介が始まりましたので耳を傾けていますと、

「私は子育てや教育は女房に任せっきりですので、今日は思い切って会社に育児届を出してこの講座に参加しました。いや、実を言うと下の子のための育児休暇なのですがね。」

若い父親の弾んだ声が聞こえてきました。私は父親の勇気のある発言に感心しました。

日本の社会では今でも父親は仕事が第一で、

育児は母親という考えが根深く残っているように思われるからです。

確かに、父親全員に育児休暇があればいいのですが、大部分の方は子育てに参加したくても、そのような休暇も時間も無いのが現状です。だからと言って育児を母親にだけ押し付けてしまうのは考えものです。たとえ僅かな時間であっても父親が育児に参加することができれば、お子さんへの愛情や理解がより深まり、円満で安定した家庭が築かれていくように思えるのです。



## 輝きコーナー 我が家の場合

今回ご紹介するのは、惣新田にお住まいの間中均さん(77才)、礼子さん(73才)ご夫妻です。

お二人にしあわせの秘訣などを伺ってみました。

ご夫妻は、田圃が8割、畑が2割の農地を持ち、田圃の忙しい農繁期には隣近所の協力で耕作を行っています。お二人は、みなさんの親切や手助けのお陰で安心して暮していける、そして二人が元気で生活していただけるのは、自分で作ったお米や野菜を主に食べることが健康の秘訣かもしれないと話していました。

ご夫妻には長男、長女、孫3人がおりますが、孫に会えるのは、お正月と夏休みぐらいです。しかし、「孫は来て良し帰って良し」とうれしそうに笑って話してくれました。

また、今のお二人の楽しみは、温泉に行くことだそうです。家を留守に出来ないので、残念ながら一緒に出掛けることはありませんとの話でした。



間中均さん・礼子さんご夫妻

均さんは、礼子さんの実家である秋田県に行つて、親戚の人達と温泉を楽しみ、礼子さんも仲間と温泉旅行を満喫しているそうです。ご夫妻はお互い相手の行動を制約せず自由ですと笑顔で話しておりました。

これからも、身体が続く限り農業を続け、農閑期には好きな温泉旅行を楽しみながら、いつまでも元気で暮していきたいと言っていました。

私は取材を通じて、今後もお二人で協力しあいながら、健康で長生きしていただきたいと思いました。

## 「第18回埼葛人権を考えるつどい」 ～夢 希望・・・10万人の願い～

10月15日(木)に春日部市民文化会館において人権尊重社会をめざす県民運動事業「人権を考えるつどい」が埼葛地区8市7町合同で開催され、当協議会委員が研修の一環として参加しました。

今回、初の試みとして、埼葛15市町の小・中学校の全児童生徒約10万4千人が人権に思いを寄せたメッセージを書いたオブジェを作って参加し、1階エントランスホールに展示され話題を呼んでいました。

オープニングは、春日部市立谷原中学校の生徒による「谷中ソラン踊り」です。開会式では主催者、来賓あいさつで「生活環境の多様化、格差社会の拡大の中で、同和問題をはじめとする人権問題の解決に一人ひとりが積極的に行動し、更に啓発、教育活動を行うことが必要である」と訴えていました。

その後、ステージでは、歌や演奏、演劇等、また、会館の内外でも各市町の団体が趣向を凝らした展示や特産物の販売が行われました。

こうした集いを通して、みんなで「人権」について考える場として有意義な一日でした。

なお、第19回人権を考えるつどいは、平成22年10月14日(木)に久喜市総合文化会館にて開催されます。

## 表紙の書

「日本女性会議2009さかい」のオープニングセレモニーで、女性書道家が書き上げた作品。

### 「山の動く日きたる」

山の動く日きたる。  
かく云へど、  
人これを信ぜし。  
山はしばらく眠りしのみ  
その言  
彼等みな人に燃えて  
動きしを。  
されど  
そは信ぜずともよし  
人よ、ああ、  
唯だこれを信ぜよ、  
すべて眠りし女、  
今ぞ目覚めて動くなる。

(堺市堺区の石碑より)

与謝野晶子

## ● ● 編 ● 集 ● 後 ● 記 ● ●

モア15号はいかがでしたか。私は、今回より男女共同参画推進委員になりました。初めは共同参画って何?と思いましたが、セミナー開催やモアの作成等をおして、「お互いを認め合う社会の大切さ」を再認識しました。

同じような疑問をお持ちの方に、今回の男女共同参画プランが参考になり、関心を持っていただけることを願ってお届けします。

ご意見ご要望を事務局までお寄せ下さい。(S・T)